

会社概要

(令和5年9月30日現在)

商号	フジプレアム株式会社 Fujipream Corporation(英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	精密貼合及び高機能複合材関連事業 環境ビジネス関連事業 他
従業員数	242名(連結、臨時雇用を除く)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場/研究所/PV工場 東京営業本部
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社(設立:平成13年4月) プレマテック株式会社(設立:昭和37年6月)
主要取引銀行	三菱UFJ銀行/みずほ銀行/山陰合同銀行

取締役及び監査役

(令和5年9月30日現在)

代表取締役社長	松本 倫長	常勤監査役	山本 良徳
代表取締役専務	名村 信彦	監査役	中川 康徳(社外)
取締役	木村 裕史(社外)	監査役	田島 宏一(社外)
取締役	森田 晃史		

株式の分布状況

(令和5年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	8,218名

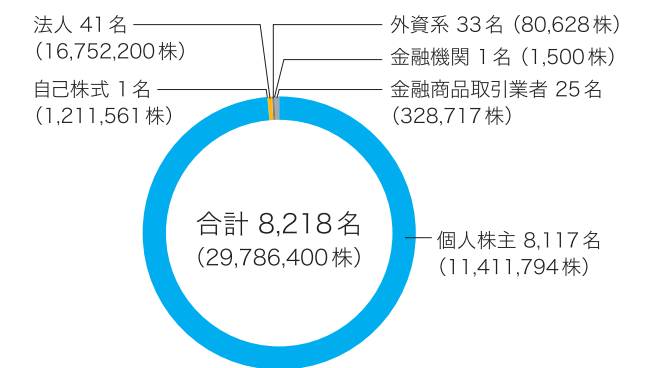
大株主の状況

(令和5年9月30日現在)

フォローウインド株式会社	12,092,700株
松本 倫長	2,441,400株
松本 庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
日亜化学工業株式会社	1,425,000株
フジプレアム株式会社	1,211,561株
リンテック株式会社	812,000株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
藤田 和也	258,000株
津田 鉄也	252,500株

株式分布状況

(令和5年9月30日現在)



MEMO | 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 (当事業年度の中間配当の予定はございません)
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.fujipream.co.jp/)に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777(通話料無料)

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いきませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



精密貼合市場のグローバルリーディングカンパニーを目指す。

当社を取巻くビジネス環境は、新型コロナウイルス感染症の影響が低下したことにより経済社会活動も正常化に向かい、景気も緩やかな回復基調となりました。一方、ウクライナ情勢の長期化、欧米でのインフレ抑制に向けた金融引き締め政策に起因する円安の進行、これらに伴う資源価格の高騰による物価上昇懸念等、依然として予断を許さない状況が続いております。

当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門におきましては、自動車業界及びエレクトロニクス業界でのディスプレイ化、タッチパネル化ニーズを取込み、当社の精密貼合技術を活用した加工ビ

ジネスを拡大してまいりました。しかし車載関連、エレクトロニクス関連での受注状況は外国為替の影響により商流が変化する等、市場環境は厳しい状況となっております。

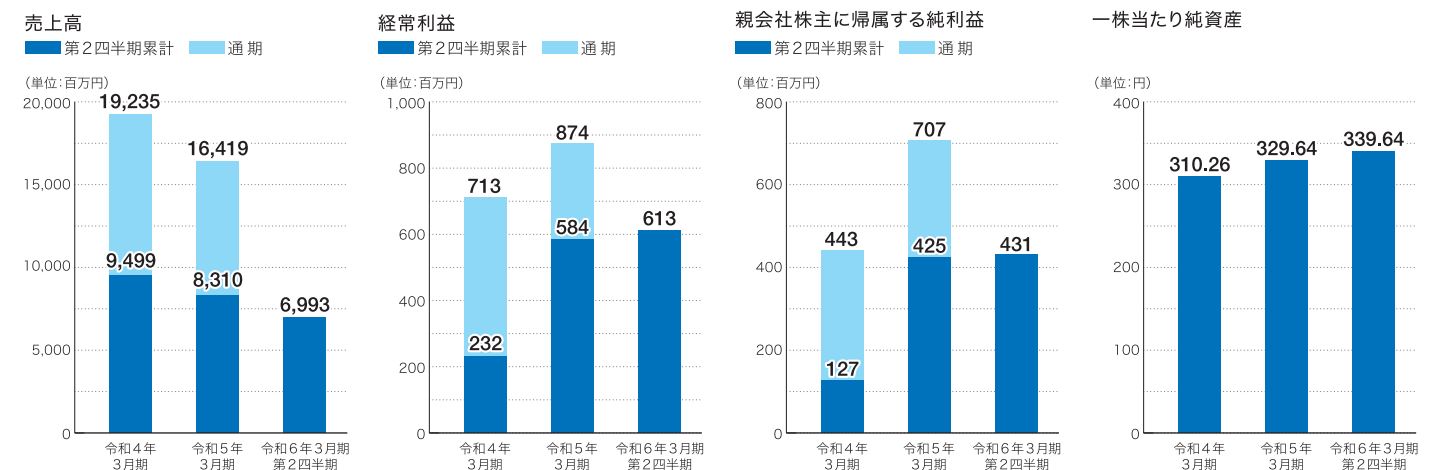
一方、環境住空間及びエンジニアリング部門におきましては、太陽光発電事業は引き続きOEM供給を中心とした生産を実施、また機械製造販売子会社のプレマテック株式会社との協業が順調に推移し、半導体不足に起因する半導体関連設備の需要増にも対応することで好調を維持しております。

今後、当社は変革のスピードを加速させ、グローバルリーディングカンパニーを目指してまいります。



代表取締役社長 松本倫長

Financial Highlight | 財務ハイライト



親会社株主に帰属する四半期純利益 4億3,100万円確保

精密貼合及び高機能複合材部門

ディスプレイ・タッチパネル市場は、デジタル化が進み拡大基調となっておりますが、新規参入企業の増加や海外企業の躍進もあり、競争はより激しくなっております。また、為替の影響によりグローバルな完成品メーカーが商流を見直す等、当社の受注に影響を及ぼす事象も発生しております。今後、センターインフォメーションディスプレイ、メータークラスターパネル等自動車の電子化・ディスプレイ化が進み、スマートフォンの高度化、ディスプレイの大型化等で市場も拡大する中、当社は精密貼合技術により一層磨きを掛け、最先端生産設備の開発・導入による生産の高度化を実施することにより、難易度の高い技術を求められる用途製品の受注・開発に取り組んでおります。

この結果、売上高4,332百万円(前年同四半期比22.5%減)、営業利益108百万円(同17.7%減)となりました。

第42期
第2四半期売上高
43億3,200万円
【営業利益】1億800万円



62.0%

精密貼合及び
高機能複合材部門

38.0%

環境住空間及び
エンジニアリング部門

当第2四半期
売上高合計
69億9,300万円



環境住空間及びエンジニアリング部門

太陽電池の国内市場は、国内制度の変更あるいは海外メーカーの台頭により、国内メーカーにとっては厳しい状況が続いております。そのため当社グループも、コスト削減を進めながら、OEM供給を主軸とし、その中でも製品開発・用途開拓等の開発要素が大きいものに注力してまいりました。また、エンジニアリング部門においてはプレマテック株式会社での部品調達等の長納期化が起きていますが、半導体・液晶関連向け製造装置の受注が順調に推移し好調を維持しております。メカトロニクス技術を活用した省人化あるいは省エネルギー化ビジネスにも引き続き注力しております。

この結果、売上高2,660百万円(前年同四半期比2.2%減)、営業利益482百万円(同13.0%増)となりました。

第42期
第2四半期売上高
26億6,000万円
【営業利益】4億8,200万円



TOPICS | トピックス

TOPICS
01

第41回 株主総会の実施

令和5年6月29日(木)午前10:00～
当社本社ビル4階 大会議室にて株主総会を実施いたしました。



TOPICS
02

阪神タイガース 38年ぶり日本シリーズ優勝

当社では平成22年より甲子園球場の1塁側内野フェンスに看板を設置しております。

今年の日本シリーズは阪神タイガースとオリックスバファローズとの59年ぶりの関西対決となりました。第7戦までの白熱した戦いの果て阪神タイガースが38年ぶりにシリーズを制しました。

阪神の活躍で球場の観客動員も増加しテレビの視聴率も高まったこともあり、お気づきになられた方も多かったのではないのでしょうか。



TOPICS
03

アマゾン社よりレインボーメダリストとして表彰

大手多国籍企業はEcoVadis(サステナビリティ評価機関)と提携して、「Force for Good」(善を促進する力)の影響を広めることで、取引先がコンプライアンスを上回る措置を講じるよう促しています。当社もサステナビリティ調達に取り組むアマゾンジャパンの依頼によりEcoVadisの評価を受けております。本年は昨年の銅メダルから銀メダルにランクアップ。これにより「レインボーメダリスト」として認定され、普段は開示されていないアマゾンジャパンの拠点見学ツアーに招待されました。



PICKUP

舗装型路面発電システム — 脱炭素社会推進で街の復興へ —

福島県の大熊町では、ゼロカーボン推進による復興を進めており、再生可能エネルギーの活用によるゼロカーボンへの貢献を追求しています。その一環として、路面太陽光発電システムの実証プロジェクトが進行中です。

この実証プロジェクトでは、役場駐車場のバス停周辺の通路に太陽光発電パネルを設置し、実際の発電性能を評価します。さらに、落ち葉や清掃頻度などが発電効率に及ぼす影響も詳細に調査し、最終的にはデジタルサイネージの電源としての利用を検討しています。

この路面太陽光システムに採用されている太陽電池モジュールは、当社 ELS 事業部が供給しています。この小規模な発電所は街の景観を損なわず、夜間にはLEDライティングと組み合わせて高い視認性の案内サインとしても活用でき、特に災害時には、停電の際に路面発電システムを活用することで、安全で信頼性の高い電源を提供できるため、街づくりにおいて重要な要素となります。

私たちは再生可能エネルギーを通じて「社会の安心」に貢献できることを誇りに思い、今後も積極的に活動を続けていきます。

